

PDA 即興型英語ディベート 熊本交流会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2025年11月15日（土）09:00-12:00（午前の部）・13:00-16:00（午後の部）

会場：オンライン（Zoom）

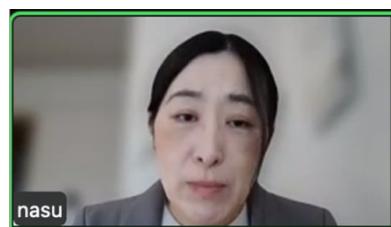
参加者：午前 生徒21名、午後 生徒10名（熊本商業高校、熊本西高校、八代高校、真和高校）

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ・熊本教育センター、九州大学、広島大学

熊本県内の4つの高校が集まり、即興型英語ディベートに挑む「PDA 即興型英語ディベート 熊本交流会」が始まりました。午前中は初心者向けの部、午後は経験者向けの部で、それぞれ2回のディベートセッションが実施されます。

はじめに、熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高等学校教育指導班 指導主事 那須智子先生より「英語を使うことを楽しんで、相手を尊重してお互いを高め合う気持ちを持って頑張ってください。」とご挨拶いただきました。その後、PDAスタッフよりルール説明が行われました。

ルール説明後のワークショップでは、スピーチの構成（AREA）に関する説明が行われ、「喫煙を禁止すべきだ」という論題を例に、チームごとにAREAの構成でスピーチをするとしたらどのような内容になるのかを話し合いました。各チームの代表生徒がチームの意見を述べ、他の参加者からはそのわかりやすい内容に拍手が送られました。



那須指導主事によるご挨拶



POI（質疑応答）のポーズ練習

1ラウンド目の論題は、“**It is better for university admission test takers to have a boyfriend/girlfriend.**（大学入試の受験生には彼氏/彼女がいた方がいい。）”でした。受験生にとって彼氏/彼女の存在が支え合いで勉強のモチベーションになるのか、むしろメンタルの不安定さをもたらし勉強の邪魔となってしまうのかという論点について、肯定側・否定側はそれぞれ AREA の構成を心掛けながら論理的に説明しました。ジャッジにイメージを適切に伝えるため、感情を込めた状況描写を含むスピーチも見られました。ディベート後は対戦相手と学校生活について話し、交流を深めました。



POI!!!(熊本商業 A VS 熊本西 A)



堂々とスピーチ (熊本商業 B VS 熊本西 B)



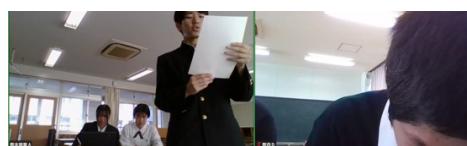
PDA 認定ジャッジの講評



試合後の握手 (熊本商業 B VS 熊本西 B)

続く 2 ラウンド目の論題は “Convenience stores should be closed late at night. (コンビニエンスストアの深夜営業をやめるべきである。)” でした。お客様が少ない時間帯にも関わらず多くの電力を消費してしまい、コストがかかるだけでなく、環境への悪影響があることを説明する肯定側に対し、否定側は夜中にもコンビニが必要な人の存在やコンビニの明るさが地域の防犯の向上に繋がっていると主張し、白熱したディベートを展開しました。ディベート後は、相手チームと画面越しに握手を交わしたあと、「今の論題難しかったね」「とても上手でした！」など、相手を労う言葉が交わされました。

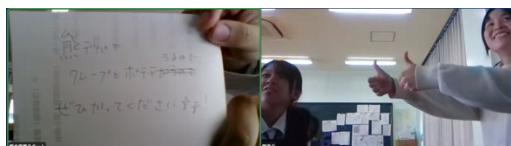
午前の初心者の部参加者に向けて、熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高等学校教育指導班 指導主事 那須智子先生より「和気藹々と仲良くお互いを尊重しながらディベートする様子が多く見られ、大変いいところだと思うので、今後の英語学習に繋げてください。」とメッセージが送られました。



スピーチの様子 (熊本商業 A VS 熊本西 B)



すかさず POI!!!(熊本商業 B VS 熊本西 C)



画面越しに交流(熊本商業 B VS 熊本西 C)



真剣に相手のスピーチを聞く様子

昼食休憩ののち、午後の経験者の部が始まりました。はじめに、午後の部の参加者に向けて、熊本県教育庁 県立学校教育局 高校教育課 高等学校教育指導班 指導主事 那須智子先生より、「持っているスキルをさらに磨くことができるよう、お互いを尊重しながら頑張ってください。」とご挨拶いただきました。その後、PDA スタッフよりルールのおさらいと、説得的な立論の方法や比較の仕方に関するレクチャーが行われました。レクチャーでは、PDA スタッフからの質問に対して、わかりやすく自分の考えを述べる生徒の姿が見られました。



午後の経験者の部でも PDI の練習に取り組みました

いよいよディベート実践のスタートです。午後の部の最初の論題は “**Fast fashion brings more harm than good.** (ファストファッションは、利益よりも害をもたらす。)” でした。肯定側は、ファストファッションは流行が短期間で変わるために大量消費をもたらし環境に良いこと、児童労働の問題について述べ、否定側は貧困層へのメリットや発展途上国における雇用の創出について説明しました。お互いの主張の重要性について、軸を用いて比較する様子も見られました。ディベート後は午前の部と同様に、他校の生徒との交流を楽しみました。



スピーチの様子(真和 B)



アイコンタクトを意識してスピーチ(八代)



ディベート後の交流 (真和 A VS 八代)

休憩をはさみ、本日最後のディベートです。論題は、“**After-school club activities in schools should be abolished.** (学校における放課後のクラブ活動は廃止すべきである。)”でした。生徒だけでなく教員への影響の変化を説明したり、放課後のクラブ活動の社会的な意義を重要性として説明したりとするチームも見られ、レクチャーでの学びを実践に活かすことができました。



ディベート後は画面越しに握手を交わしました



POI ポーズで記念撮影

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・普段授業でもディベートをするのですが、今日のようなジャッジをしてくださる試合は緊張感があつて楽しかったです。（熊本商業）
- ・普段英語をこれだけ話す授業がなかなかないし、学校外の人と交流出来て楽しかった（熊本西）
- ・自分の英語力で反論できる内容が限られて悔しかったです。もっと知識を深めてまた挑みたいです！（熊本西）
- ・他校との交流が楽しかった（熊本西）
- ・実際に試合ができたのと、他校の方と交流ができるとても楽しかった（熊本商業）
- ・ジャッジの方がチームと個人で丁寧にフィードバックしてくださったので、次のディベートで活かそうと思います。（八代）
- ・とてもいい経験になりました。ありがとうございました！今日ジャッジの方々から頂いたアドバイスを今後の試合に活かしていこうと思います！（真和）

- ・今日学んだことを意識して実践することができたし、他の学校の生徒さんと交流できて楽しかったです。ありがとうございました。(八代)
- ・言いたいことを英語で言うことが難しくてもどかしかったです。(真和)
- ・頑張ったけど負けてしまったのが悔しかった。英語での交流が出来て楽しかった。(熊本西)
- ・だんだんリスニングもできてきて、相手の話がすらすらわかるようになったのが嬉しかったです。自分では思いつかないようなことを言われるのが刺激になりました。(真和)
- ・ディベートにおいて、大切なこと、現時点から改善させるためににが必要かということを知ることが出来てとても楽しかったです。真和高校さんとの交流がたのしかったです。(八代)
- ・試合をすることで、自分たちが思いつかなかつたアイデアをたくさん知ることができてとても楽しかったです。(真和)